滑川市立東部小学校　　学校だより３号　　令和２年７月１日発行

道

学校の教育目標
「ともに学び、
心豊かで
たくましい
子供の育成」

挨拶で気持ちを伝えたい

校長　宮　島　和　生

７月に入り１学期も残り1か月となりました。学校再開以降、幸い感染拡大の兆候は見られず、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、授業や児童の学校生活が順調に送ることができております。また、６月末の一日オープンスクールには、平日にもかかわらず多数の保護者やご家族の方に、子供たちの学校での様子を参観していただき、誠にありがとうございました。

さて、私は、毎朝校門で挨拶をしながら、登校してくる児童を迎えています。少しずつではありますが、元気に挨拶してくれる人数が増えてきました。子供たちが元気に挨拶を返してくれると、こちらも「よし頑張ろう」と気持ちが高まってきます。１日をのりきる栄養剤のようなものになっています。

わざわざ声に出して挨拶しなくても…と思っている子供も中にはいるかもしれません。日本では古くから、「あうん」の呼吸や以心伝心といった言葉で、言わなくても互いに意思が伝わることを美しく表現することがあります。しかし、言葉に出して話さないと分からないものもたくさんあると思います。「〇〇をください」「〇〇がいいです」などと言葉に出す場合は、直接物のやり取りがあるような場合だと思いますが、挨拶は目に見えない気持ちをやり取りするものです。言葉に出して「おはようございます」「ありがとうございます」「すみません」と伝えることで、初めて気持ちが伝わったと実感できるのではないでしょうか。

もう一つ、挨拶を言葉に出してすることのよさがあります。相手から認めてもらえたという気持ちになるということです。「おはようございます」と挨拶をしたときに、ただ返事をもらうだけではなく、自分の目を見ながら返してもらえると自分の存在が認められたような気持ちになります。校門で挨拶してくれた子供たちには、目を見て「元気をくれてありがとう。あなたがいてくれるから元気が出るよ」という気持ちを込めて挨拶を返しています。

今は、挨拶を返すだけの子供が多いのですが、できることなら自ら挨拶できるようになってほしいと思っています。

普段の挨拶や感謝の気持ちを、素直に言葉に出せるような東部っ子に、ぜひ育ってほしいです。みなさんのご家庭でも挨拶が定着するように、ご協力いただけると幸いです。